

機械器具 16 体温計
管理医療機器 電子体温計（JMDNコード：14032010）

テルモ電子体温計 P 2 1 0

（一般用・通信タイプ）

【警 告】

- 子供だけで使わせないこと。[本体の先端部をかみ切って飲み込んだり、けがをする可能性がある。]

【禁忌・禁止】

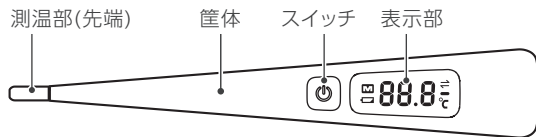
- 引火性のある環境では使用しないこと。[引火又は爆発の誘因となる可能性がある。]

【形状・構造及び原理等】

<構造図>

●本体

（正面）



（背面）

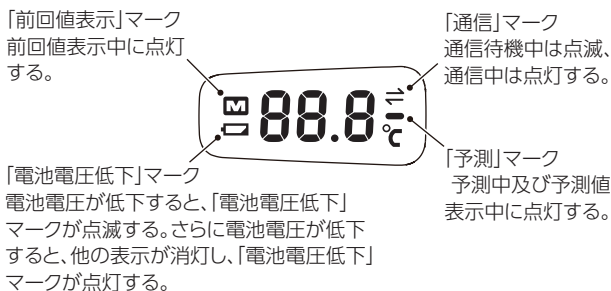


体に接触する部分の原材料
・測温部（先端）：SUS ステンレススチール
・筐体：ABS樹脂

●収納ケース



●表示部 ※説明のため、全点灯で表示



外観寸法：長さ138mm×幅23mm×厚さ13mm

質 量：約16 g（電池含む）

付 属 品：収納ケース、取扱説明書／EMC技術資料／品質保証書

【機器の分類】

電撃に対する保護の形式による分類：内部電源機器

電撃に対する保護の程度による装着部の分類：BF形装着部

水の浸入に対する保護：IPX5/IPX7

【電気的定格】

電 源：アルカリボタン電池（LR44）1個（交換可）

電 圧：DC1.5V

消費電力：約11.8mW

<原理>

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約4分30秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示する。検温中は、約10秒で予測が成立したことを知らせるブザーが鳴り、検温をそのまま続けると、検温開始から約10分後に実測検温終了のブザーが鳴る。

【付帯機能】

初期動作確認機能（告知機能）	：電源ON時に所定の表示を行い、検温可能を告知する。
予測成立ブザー機能（告知機能）	：予測成立時にブザーが鳴動する。
定刻ブザー機能（告知機能）	：検温開始から約10分後にブザーが鳴動する。
エラー表示機能（告知機能）	：検温不良時、ブザーが鳴動し、表示部に「E」を表示する。
使用温度範囲外表示機能（告知機能）	：使用周囲温度が、使用条件の範囲外の場合、表示部に「HH」又は「LL」のマークを表示する。
環境温度表示機能（告知機能）	：先端温度が高い場合、表示部に「H」のマークを表示する。
動作不能告知表示機能（告知機能）	：体温計が動作異常を検知した場合に、「E E. n」のマークを表示する。（nには数字／記号を表示する）
前回値表示機能（副表示機能）	：電源ON時に前回測定した体温値を表示する。前回値は電池の取り外しにより消去される。
電源入切機能（電源制御機能）	：スイッチを押すごとに電源がON／OFFする。
オートパワーオフ機能（自動電源遮断機能）	：検温せずに所定の時間放置すると電源が遮断する。また、検温終了後所定の時間放置すると電源が遮断する。
体温値記録機能（体温値記録機能）	：測定した体温値を最大で30回分記録する。30回を超えた場合は古いデータから上書きする。記録値は電池の取り外しにより消去される。
無線通信出力機能（外部出力機能）	：本体から体温情報、時間情報、機器情報（例：シリアル番号）を汎用モバイル機器に出力する。

【仕様に係る事項】

- 最大許容誤差（温度指示特性）：±0.1℃以内
（標準温度計に対して）
- 測温範囲：32.0～42.0℃
- 使用条件：周囲温度 10～40℃
相対湿度 30～85%RH（ただし、結露なきこと）
気 圧 700～1060hPa

取扱説明書を必ずご参照ください。

【使用目的又は効果】

<使用目的>

測温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

【使用方法等】

【測定方法】

1. スイッチを押して電源を入れる（前回値を表示した後、検温開始が可能である旨を表す「88.8」が表示される）。
2. ワキ下中央に体温計の先端（測温部）をあてる。
3. 体温計をななめ下から30° くらいの角度で、押し上げるようにはさみ、ワキをしっかりとしめる。
4. ブザーを聞いてから体温計を取り出す。

・予測検温

検温開始後、約10秒で予測成立を知らせるブザーが鳴るので取り出す（「予測」マークが点灯している）。

・実測検温

予測成立を知らせるブザーの後、検温開始から約10分後のブザーが鳴るまで待って取り出す（「予測」マークが消灯している）。

より厳密な体温を測定するには、実測検温を行う。

5. スイッチを押して電源を切る（電源を切り忘れても約3分後に自動的に電源が切れる）。

【データ通信（測定した記録値の出力）】

1. データ通信を行う場合は、ペアリング設定を行う。
2. ペアリング設定は体温計の電源が切れている状態で、スイッチを約8秒長押しする。
3. データ通信は、スイッチを押して電源を入れた後（前回値が表示されている間）又は、検温終了後に行われる。

【電池の取り替えかた】

1. コイン等で電池フタを回し、外す。
2. 体温計の電池収納部を下向きにし、手のひらに軽くあてて、使用済みの電池を取り出す。
3. 新しい電池を入れる。
4. 電池フタを本体にはめ、コイン等で電池フタを回し、しめる。
5. スイッチを押して電源を入れ、正しく表示されることを確認する。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. 体温は、時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動し、個人差、年齢等でも違いが見られるため、平熱をあらかじめ検温しておくこと。
2. 飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30分ほど待ってから測定すること。[正確な検温ができないことがある。]
3. ワキ下に汗をかいている場合は、タオル等で汗を拭き取ること。[汗をかいたまま測定すると、ワキ下が冷えているために正確な検温ができない。]
4. 電源を入れたときや検温開始前に体温計の先端（測温部）に触れないこと。[正確な検温ができないことがある。]
5. 体温計を真横からはさまないこと。[先端（測温部）がワキ下中央に正しくあたらないために、正確な検温ができない。]
6. 検温中は、体を動かしたり、体温計を動かしたりしないこと。[体温計の先端(測温部)が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがある。]
7. ワキ下に強く密着させて測定すること。[お年寄り、やせている方等で、ワキ下の密着が弱い場合は、正確な検温ができない可能性がある。]
8. くり返し検温するときは、少し時間をおくなど体温計の先端（測温部）を冷ましてから検温すること。[そのまま測定すると、正確な検温ができない可能性がある。]
9. 体や本体が冷えているときは、室温になじませてから検温すること。[そのまま測定すると、正確な検温ができない可能性がある。]
10. 数値を読み取る際は、体温計の先端（測温部）に触れないこと。[表

示が変化することがある。]

11. 指定以外の電池を使用しないこと。[故障の原因となる。]
12. 外した電池、電池フタは子供の手の届かないところに置くこと。[誤飲の可能性がある。]
13. 電池の電解液が、目、皮膚、衣服に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けること。[失明やけがのおそれがある。]
14. 電池を取り出す際は、手のひらにあまり強く打ち付けないこと。[飛び出した電池を紛失し、子供が誤飲する可能性がある。]
15. 電池のプラス面を上にして入れること。[プラス、マイナスの向きを間違えて入れると故障の原因となる。]
16. 電池フタの外側についているゴムのリングをなくさないようにすること。また、電池フタと本体の間に異物等が挟まらないように注意すること。[隙間から水等が内部に浸入し、故障の原因となる。]
17. 電池や電池フタを無理な力で押し込まないこと。[破損する原因となる。]
18. 電池フタを本体にはめる際は、強くしめすぎないこと。[本体が破損する原因となる。]
19. 電池を火の中に投げ込まないこと。
20. 長期間使用しない場合は、電池は取り外して保管すること。
21. 電池の使い方を誤ると、電池が漏液、発熱、破裂したり、けがや本体の故障の原因となるおそれがある。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

1. 人の体温測定以外に使用しないこと。[けがの可能性がある。誤作動や故障の原因となる。]
2. 測定結果の自己診断、治療は行わないこと。[自己診断、治療は危険である。]
3. ワキ下以外（口中等）で使用しないこと。[誤飲やけがの可能性がある。正確な検温ができない。]
4. 使用の前に、外観に破損等がないことを確認し、異常が認められた場合は使用しないこと。[検温値の異常や、けがの可能性がある。]
5. かまない、踏まない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないこと。[破損や故障の原因となる。]
6. 強い静電気や電磁波、磁石等に近づけないこと。携帯形RF通信機器（アンテナケーブル及び外部アンテナなどの周辺機器を含む）を、体温計のあらゆる部分から30cmよりも近づけないこと。[誤作動や故障の原因となる。]
7. 本体に液体や異物が入らないように注意すること。[液体や異物が入ると内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因（検温値の異常を含む）となる。]
8. 活性ガス（消毒用ガスも含む）環境、多湿環境等や塵埃、噴霧、腐食性ガスの発生する場所で電池交換は行わないこと。[内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因となる。]
9. 使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないこと。[装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化が生じ、本体が有する機能や性能が得られない可能性がある。]
10. 本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所で使用しないこと。[本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となる。]
11. 分解、修理、改造は行わないこと。[破損や故障の原因となる。]
12. 本体の表示部を強く押えたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでついたりしないこと。[破損や故障の原因となる可能性がある。]
13. 日光や紫外線等の強い光があたる場所に保管したり、長時間放置しないこと。[変色、劣化や故障の原因となる。]
14. 機密を要する重要な事柄や人命に関わることには使用しないこと。[通信において電波を使用している関係上、第三者が故意または偶然に傍受する可能性がある。]

【保管方法及び有効期間等】

<保管方法>

暖房器具のそば、車の中、日光のあたるところ、ほこりの多いところ、湿気の多いところを避けて保管すること。

保管条件：周囲温度 -10～50℃

相対湿度 15～95%RH（ただし、結露なきこと）

気 圧 700～1060hPa

【電池について】

- ・約1100回（予測検温）使用することができる。実測検温では、約550回連続測定できる。
- ・付属の電池（本体に装着済み）は、お試用であり、寿命が短い場合がある。
- ・使用済みの電池や体温計を廃棄する際は、各自治体のルールに従って適切に廃棄すること。

<耐用期間>

耐用期間：5年（自己認証による）

【保守・点検に係る事項】

【保守点検上の注意】

1. しばらく使用しなかったときは、使用前に必ず作動（電源が入ること、「電池電圧低下」マークが点灯していないことなど）を確認してから使用すること。
2. 本体と収納ケースを洗う際は、水で洗うこと。汚れがひどい場合は、中性洗剤を含ませた布で汚れを落とした後、水で洗うこと。収納ケースに収める際は、乾いた布等で水気を拭き取ること。
3. シンナー等の有機溶剤、ポビドンヨード、クレゾールでは拭かないこと。使用可能な消毒液（成分名）例は以下のとおりである。なお、用法及び用量はその製品の電子添文に従うこと。
消毒用エタノール／次亜塩素酸ナトリウム／クロルヘキシジン
グルコン酸塩／ベンザルコニウム塩化物
[有機溶剤や使用可能な消毒液以外を使用した場合、本品の破損、変色や故障の原因となる。ポビドンヨードで拭くと色素が付着することがある。]
4. 消毒液等に水没させないこと。消毒する際は、脱脂綿等に消毒液を浸したもので拭き、水で洗うこと。[本品は、薬品での防水は保証しておらず、故障の原因となる。消毒に必要な時間については消毒液の電子添文を参照すること。]
5. ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。[本品が破損や故障する可能性がある。]
6. 熱湯消毒はしないこと。[故障の原因となる。]
7. 超音波洗浄はしないこと。[故障の原因となる。]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：テルモ株式会社

電 話 番 号：0120-008-178 テルモ・コールセンター

外国製造業者：鴻富錦精密電子(煙台)有限公司

Hong Fu Jin Precision Electronics(Yantai) Co.,Ltd

国 名：中華人民共和国

